

2023（令和5）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1495500264	事業の開始年月日	平成25年12月1日
		指定年月日	平成25年12月1日
法人名	ヒューマンライフケア株式会社		
事業所名	ヒューマンライフケア宮前グループホーム		
所在地	(216-0012)		
	川崎市宮前区水沢3-14-3		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計 18名 ユニット数 2 ユニット	
自己評価作成日	令和5年9月25日	評価結果 市町村受理日	令和6年5月31日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ヒューマンライフケアの理念である「笑顔」と「こころ」いつでも人が真ん中に基づき、宮前グループホームでは「人が真ん中・笑顔がある暮らし」を理念とし、認知症の方の個性を尊重し「その人らしい」暮らしを大切にしていきたいと思っております。日々、体操やレクリエーション・季節の行事などを行っております。

開設から10年目を迎え医療が必要な方も増えておりますが、最期まで当グループホームでお過ごしいただけるように看護師が常駐しており、クリニックとも連携しております。

スタッフ一人一人が思いやりをもって支援すべく、研修を行い、スキルアップに励んでおります。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和5年10月18日	評価機関 評価決定日	令和6年4月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は田園都市線「たまプラーザ」駅「宮前平」駅又は小田急線「新百合ヶ丘」駅より、バスにて「稗原」下車徒歩3分ほどのところにあります。幹線道路沿いにあり、周囲には昔からの古風な家並みが残っているところです。樺の大木や竹林、雑木林の自然が残っている住環境です。

<優れている点>

法人の理念である「人が真ん中・笑顔がある暮らし」を念頭に事業所では、利用者一人ひとりに寄り添い「個性の尊重」「思いやりのある・その人らしい暮らし」など5つの柱を支援のモットーに掲げ、理念の実践に努めています。提携医療機関を中心に訪問看護、調剤管理、訪問歯科などと緊密な連携に加えて、事業所に複数の看護師職員を置き常時利用者の健康管理の支援をしています。利用者はもとより家族、職員も安心・安全な事業運営が出来ています。日常のケア記録はタブレットを導入し、職員は事業所全体2ユニットの利用者のケア記録を日頃よりリアルタイムに入力し情報の共有が行えていることで、緊急時にもユニットの垣根を超え、全ての利用者に対して適切な支援が出来るようにしています。

<工夫点>

終末期のケア支援について、管理者や看護師、ベテラン職員の知識やスキルを活かし、多くの家族の要望に答えています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ヒューマンライフケア宮前グループホーム
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	エレベーターホールや事務所・申し送りノートに掲示し、常に見えるようにしています。 ミーティング時は理念に基づいたケアについて話し合っています	法人の理念を念頭に一人ひとりの個性を尊重し、笑顔のある暮らしを支援のモットーに理念の実践に努めています。理念は玄関や事務所に掲げ、職員は共有しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	今年からお祭りが再開しましたが、コロナウィルス感染者が出たため、参加できませんでした。	町内会に加入し、地域の情報は回覧版で得ています。コロナ禍前は地域の清掃や祭りに参加していました。コロナ禍収束後は地域の行事やボランティアの招聘などの復活に積極的に取り組む予定です。	開設10年を迎え地域の重要な福祉事業所の一つです。認知症対応型事業所の利用者の暮らしや、利用方法などの紹介を地域に積極的発信することが期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	行事などでホームを開放していたが新型コロナウイルス感染対策のため解放なし。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2カ月毎に開催しておりますが、参加者は地域包括支援センターの方、後見人、利用者さんを交えて行っています。 ご家族は平日のため参加できない方が多いです。	運営推進会議は2ヶ月ごとに実施していません。現在まだ、対面会議に至っていません。行事などの活動状況や利用者の入居や職員の出入り状況などの運営状況の報告を議事録に残しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	介護保険の更新や生活保護課への相談・報告は随時行っております。	地域包括支援センターと空室情報を伝えるなどで連携を取っています。ケースワーカーは定期的に来訪し情報交換をしています。感染症予防については行政と緊密に連携を取っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	3カ月毎に身体拘束廃止委員会を開催して指針の読み合わせや身体拘束ゼロへの手引きの共有・研修をしています。 建物の構造上玄関の施錠は行ってしまっています。	身体拘束の方針は運営規定にうたっています。研修は年度の研修計画の中で実施しています。身体拘束の恐れのある事例があれば、身体拘束廃止委員会で取りあげ啓蒙しています。利用者の離脱希望時には職員は同行や見守り支援をしています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	全職員で虐待防止につとめています。ミーティングや研修を行い不適切なケアが行われていないか話し合っています。 対応困難なケースはケアカンファレンスシートを活用し本社と連携している	事業所の指針を運営規定に記載していません。虐待防止委員会は身体拘束防止委員会と一体で行っています。身体拘束・虐待防止チェックシートで年2回自己点検し虐待防止の理解を深めています。法人によるスタッフのためのメンタルヘルスなどの相談窓口を設け、相談できる環境を整えています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見・あんしんセンターを利用している方がおり、対応は管理者が行っているが、必要に応じた活用をしていることは共有しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	介護支援専門員・管理者よりご利用者・ご家族に丁寧に説明させていただいております。不明な点があれば、いつでもご連絡をくださいとお話しています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご利用者からは日々の傾聴に努めています。5月から面会が再開しご家族の来訪時に状況の報告やご相談を行っております。 本社からアンケートをお送りしています	コロナ禍では時間を決めて面会の時間を作っています。その他家族とは電話やメールでコミュニケーションを図っています。個別の心身の状況は月々の請求書と一緒に送っています。法人によるサービスについて家族アンケートを実施しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	適宜ミーティングを行い、状態変化があった場合にはミニカンファレンスやipadの申し送りを活用して発信しています。	毎月の各ユニットミーティングや年2回の個人面談の際に聞いています。管理者は、職員がいつでも自由に相談や意見、提案が言える職場環境を作っています。車いす利用者の入浴方法や行事予定など職員の意見、提案を運営に活かしています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	本社にはスタッフ相談室が設置されています。個別に面談を行い就業環境や不満解消に努めております。	パートを含む職員の仕事の成果や努力は適正に評価するようになってきました。有給休暇は希望通り取得できるように配慮しています。シフトは職員の希望や諸事情を反映して作成しています。職員の休憩室には、ソファや枕などを備え、くつろぐことができるような環境に整えています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	社内資格制度に取り組んでいます。拠点内でも定期的に認知症の方のかわりや、業務、介護技術などの研修を行っています。	年度の研修計画を作成し実施しています。研修参加者の報告書で他の職員は研修内容を共有しています。法人による資格取得や国家資格取得制度を整備しています。人材育成や昇進昇格の支援、知識やスキルアップの向上、サービスの質の向上にも繋げています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	社内研修がzoomで行われており、他拠点のスタッフとも情報交換をしています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	アセスメント時にご本人に傾聴し、これからの思いや希望を聞き出し、不安のない生活を送ることができるようにしております。そのご希望は計画に反映するようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご本人・ご家族のご希望・ご要望に沿うように支援は検討するが、代替を検討しても対応できない場合は上司に相談してご本人やご家族に説明し、ご理解いただいております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人・ご家族のご希望・ご要望に沿うように支援は検討するが、代替を検討しても対応できない場合は上司に相談してご本人やご家族に説明し、ご理解いただいております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人の思いを理解・共感し尊重することで共同できるような関係を築いております。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご本人の思いの実現に向けて、職員だけでなくご家族にもできる範囲で協力を依頼しております。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	お家で使っていた家具や食器などをご持参いただき馴染みの物がある暮らしをしていただいております。	馴染みの人との手紙や電話の交信支援をしています。コロナ禍前は友人や知人の来訪があり、居室での面会を実施し湯茶で持てなし、居心地良く面会ができるような配慮に努めています。墓参りや、一時帰宅、家族との外出など収束後は復活を予定しています。編み物やぬり絵、読書など趣味も継続の支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	レクリエーションや一緒に家事を行うなど施設の中で役割を担っていただくことで、共に支え合いながら生活していただけるよう支援しております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去された方でも連絡・相談などがあれば支援に努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のかかわりの中でご本人の思いや意向を把握できるようにしているが、できない場合はご家族に伺って検討するようにしております。	言葉掛けを多くして、思いや意向を聞き取るように心掛けています。重度の認知症状により、意思疎通が困難な利用者に対しては、表情や様子から「やりたいこと、嫌なこと」を把握しています。普段と違う言動から異変を察し、病気発見につながったケースがあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時のアセスメント、ご家族へのヒアリングから把握しています。その後も日々の会話の中から更新時のアセスメントに加えられるようにしております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	24時間シートを作成し、状況把握に努め、情報交換・共有しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	月1回のミーティングの中でケアカンファレンスを行っています。すぐに対処が必要な時は適宜対応し改善をはかります。	一人ひとりの生活の流れに沿った、24時間時系列のケアプランを作成しています。職員全員が個々の生活リズムを把握し、同じタイミングで統一したケアが行えるように努めています。フロアミーティングやその日に勤務している職員で、適宜モニタリングを実施しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	iPad入力になっています。特に重要な事は申し送りにて周知できるようになっています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご家族が対応できない場合の通院は職員が同行しご希望に応じて臨機応変に対応できるようにしております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	協力関係が結べていない部分も多い		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回の内科往診、週1回の訪問看護・週1回の歯科往診が基本であり、随時、情報提供や連携を図っています。検査などが必要な場合は外部に受診も行っていきます。内科は24時間オンコール対応です。	法人提携の内科医が月2回、看護師が毎週訪問しています。3人の看護職員と連携して医療・健康面を手厚く支援することができます。専門医の受診が必要な場合は訪問医が紹介し、診療情報を提供しています。また、法人提携のデンタルクリニックの訪問歯科が治療や検診にあたっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	拠点内の看護職員と訪問看護師と情報を共有し、適宜支持を仰げる体制がとれています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院と定期的に連絡しかわりを持つようにし、病院・ご家族と情報共有をすることで退院時の受け入れが円滑にできるように努めています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期においては、医師・ご家族とカンファレンスを行い、方針を説明しております。 ターミナルケアを行う場合に備えて研修も行っています。 2023年には近くにホスピスホーム開設しています	重度化した際は医師、家族、職員でカンファレンスを実施し、改めて家族の意向を確認し話し合っています。住み慣れた居室で家族に見守られながら最期を迎えるように努めています。「看とり介護」の経験豊かな職員が知識とスキルを生かして支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	職員全員でマニュアルを共有し、事務所のキャビネットに貼り出して緊急時に備えております。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の防災訓練を行っております。 (1階の小規模多機能型居宅介護事業所と一緒にしています)	年2回防災訓練を実施し、1回は消防署の指導の下で行っています。併設の小規模多機能型施設との合同訓練で、日中・夜間・火災・地震を想定しています。食料品、飲料水、カセットコンロなどの防災用品を備蓄し、チェックリストを作成して屋外の倉庫で保管しています。	防災訓練に地域住民の参加・協力が望まれます。自治会や運営推進会議を通して地域との連携、協力体制を構築していくことが期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	声掛けや言葉づかいに注意して対応しています。（居室の出入り・トイレの声掛けなど）	トイレへの声掛けは小声でし、居室に入るときはノックをするなどの配慮をしています。呼称は「名字にさん付け」ですが、利用者の馴染みのある、下の名前や元の役職名で呼ぶ場合もあります。職員に不適切な対応があればその場で指導したり、事例検討する機会を設けています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自己決定しやすい言葉かけを行うようにしています。 家事（食器片づけ・洗濯物たたみ）などできることはしていただけるように声かけをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	理念にもあるように、心地の良い場所・スローライフお時間を作れるよう支援するよう心がけております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	洋服はご自身で選んでいただくようにしています。 定期的に訪問理美容を利用し、カット・カラーなどご希望に応じています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	体調やADLに応じてお粥や刻み食・ミキサー食を提供しています。 盛り付けなどをスタッフと一緒にし、食事の楽しみや役割を持つことで張り合いのある生活ができるように支援しています。	食材、メニューは業者委託で湯煎食品を中心に、和え物や味噌汁を手作りしています。行事食や希望の季節のメニューを取り入れています。利用者はお盆拭きや誕生会のケーキのトッピングなどで参加しています。一品一品の味にこだわりながら食べやすい形態で提供しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	ipadにて食事・水分の接種管理を行い記録に残しています。 摂取量の少ない方にはゼリーなどで水分補給を促しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアを実施し、口腔内の状況により歯科往診を行い相談や助言をいただいております。 歯磨きが難しい方にはスポンジやウエットティッシュなどで口腔ケアを行っています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	ipadを使用し、排泄パターンに合わせた介助ができるように職員で情報共有をして声掛けを行っています。	タブレットで一人ひとりの排泄情報を確認し、声掛け・誘導しています。日中はトイレに行くこと、便座に座る事を重視して支援しています。入院してオムツ使用になった利用者が、退院後2人介助でトイレでの排泄が可能になった改善例があります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	牛乳や青汁・オリゴ糖などを提供し、運動の促進を行い自然排便を目指しております。 医療とも連携し、排便コントロールを行っています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	週2回の入浴日を設けております。 体調不良の際はシャワー浴や清拭で対応しております。 シャワー浴時は足浴やタオルを肩にかけてシャワー浴でも温まれるようにしています。	週2回午前中の中の入浴を基本としています。 体調の優れない人は午後または翌日の入浴、シャワー浴、足湯と臨機応変に対応しています。入浴時は歌を唄ったり、昔話をして職員との会話を楽しむ時間帯となっています。入浴後の着替えは自身で選び、用意する人もいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	定期的なりネン交換・室温調整を行い、その方のペースでお昼寝や休息が取れるよう生活習慣を大切にしながら支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	全職員にて薬についての理解を深め、服薬時はダブルチェックにて確認するよう徹底しています。 飲みにくい場合はトロミを使用し飲み込みまで確認をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	できることを継続できるように支援し、その方の得意分野でお手伝いをしていただき役割を持ってもらうことで楽しみに繋がるように支援しています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	新型コロナウイルス感染対策のため自粛しております。 ご家族からも感染のリスクがあるので外出の希望は今のところありません。 (必要時は外部受診は行っております)	事業所前の幅広い歩道が日常の散歩コースです。季節ごとに変化する木々を眺めたり、ペットショップに立ち寄り犬を見て癒やされている人もいます。たまプラーザ駅周辺へドライブでの花見をすることもあります。自宅で食事をしたり、家族と一緒に買い物を楽しんでもらえるように声掛けも行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族よりお預かりし事務所の金庫にて保管しています。 歯ブラシや衣類（下着や靴下）、理美容代などに使用しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	必要に応じて電話でお話ししていただいています。 お手紙が届いた時は、ご本人にお渡ししながらお話を聞いています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	フロアの壁には季節の飾りつけをして楽しんでいただいています。 （お正月・節分・ハロウィン・クリスマスなど）	広く採光も良いリビングは、車いすで移動しやすいようなテーブルやイスの配置をしています。歩行訓練や、チラシでゴミ箱作りなどで過ごせるように、職員は見守をしています。カウンター式キッチンからはリビングの様子をすぐに確認することができ、職員は利用者の安全確認や、言葉かけに努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファや席の配置を工夫し自由にTVを観たり雑談ができるよう環境調整をしています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご自宅で使用していた家具や馴染みの物・使い慣れた物を配置していただき今までの生活の延長となるよう配慮しております。	エアコン、クローゼット、カーテン、ベッドを備えています。利用者はタンス、イス、仏壇など慣れ親しんだ家具や品々を持ち込んでいます。自身のぬり絵などの作品を壁に飾る人もいます。居室担当職員が衣類整理や環境整備をして、居心地良く暮らせるように支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室やトイレは分かりやすく表示することで安心できる環境づくりをしています。 安全にも配慮し席など工夫しています。		

事業所名	ヒューマンライフケア宮前グループホーム
ユニット名	3階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	エレベーターホールや事務所・申し送りノートに掲示し、常に見えるようにしています。 ミーティング時は理念に基づいたケアについて話し合っています		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	今年からお祭りが再開しましたが、新型コロナウイルス感染者が出たため、参加できませんでした。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	行事などでホームを開放していたが新型コロナウイルス感染対策のため解放なし。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2カ月毎に開催しておりますが、参加者は地域包括支援センターの方、後見人、利用者さんを交えて行っています。 ご家族は平日のため参加できない方が多いです。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	介護保険の更新や生活保護課への相談・報告は随時行っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	3カ月毎に身体拘束廃止委員会を開催して指針の読み合わせや身体拘束ゼロへの手引きの共有・研修をしています。 建物の構造上玄関の施錠は行ってしまっています。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	全職員で虐待防止につとめています。ミーティングや研修を行い不適切なケアが行われていないか話し合っています。 対応困難なケースはケアカンファレンスシートを活用し本社と連携している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見・あんしんセンターを利用している方がおり、対応は管理者が行っているが、必要に応じた活用をしていることは共有しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	介護支援専門員・管理者よりご利用者・ご家族に丁寧に説明させていただいております。不明な点があれば、いつでもご連絡をくださいとお話しています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご利用者からは日々の傾聴に努めています。5月から面会が再開しご家族の来訪時に状況の報告やご相談を行っております。 本社からアンケートをお送りしています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	適宜ミーティングを行い、状態変化があった場合にはミニカンファレンスやipadの申し送りを活用して発信しています。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	本社にはスタッフ相談室が設置されています。個別に面談を行い就業環境や不満解消に努めております。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	社内資格制度に取り組んでいます。拠点内でも定期的に認知症の方のかかわりや、業務、介護技術などの研修を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	社内研修がzoomで行われており、他拠点のスタッフとも情報交換をしています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	アセスメント時にご本人に傾聴し、これからの思いや希望を聞き出し、不安のない生活を送ることができるようにしております。そのご希望は計画に反映するようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご本人・ご家族のご希望・ご要望に沿うように支援は検討するが、代替を検討しても対応できない場合は上司に相談してご本人やご家族に説明し、ご理解いただいております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人・ご家族のご希望・ご要望に沿うように支援は検討するが、代替を検討しても対応できない場合は上司に相談してご本人やご家族に説明し、ご理解いただいております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人の思いを理解・共感し尊重することで共同できるような関係を築いております。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご本人の思いの実現に向けて、職員だけでなくご家族にもできる範囲で協力を依頼しております。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	お家で使っていた家具や食器などをご持参いただき馴染みの物がある暮らしをしていただいております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	レクリエーションや一緒に家事を行うなど施設の中で役割を担っていただくことで、共に支え合いながら生活していただけるよう支援しております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去された方でも連絡・相談などがあれば支援に努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のかかわりの中でご本人の思いや意向を把握できるようにしているが、できない場合はご家族に伺って検討するようにしております。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時のアセスメント、ご家族へのヒアリングから把握しています。その後も日々の会話の中から更新時のアセスメントに加えられるようにしております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	24時間シートを作成し、状況把握に努め、情報交換・共有しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	月1回のミーティングの中でケアカンファレンスを行っています。すぐに対処が必要な時は適宜対応し改善をはかります。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	iPad入力になっています。特に重要な事は申し送りにて周知できるようになっています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご家族が対応できない場合の通院は職員が同行しご希望に応じて臨機応変に対応できるようにしております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	協力関係が結べていない部分も多い		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回の内科往診、週1回の訪問看護・週1回の歯科往診が基本であり、随時、情報提供や連携を図っています。検査などが必要な場合は外部に受診も行っています。 内科は24時間オンコール対応です。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	拠点内の看護職員と訪問看護師と情報を共有し、適宜支持を上げる体制がとれています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院と定期的に連絡しかかわりを持つようにし、病院・ご家族と情報共有をすることで退院時の受け入れが円滑にできるように努めています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期においては、医師・ご家族とカンファレンスを行い、方針を説明しております。 ターミナルケアを行う場合に備えて研修も行っています。 2023年には近くにホスピスホーム開設しています		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	職員全員でマニュアルを共有し、事務所のキャビネットに貼り出して緊急時に備えております。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の防災訓練を行っております。 (1階の小規模多機能型居宅介護事業所と一緒にしています)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	声掛けや言葉づかいに注意して対応しています。（居室の出入り・トイレの声掛けなど）		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自己決定しやすい言葉かけを行うようにしています。 家事（食器片づけ・洗濯物たたみ）などできることはしていただけるように声かけをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	理念にもあるように、心地の良い場所・スローライフお時間を作れるよう支援するよう心がけております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	洋服はご自身で選んでいただくようにしています。 定期的に訪問理美容を利用し、カット・カラーなどご希望に応じています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	体調やADLに応じてお粥や刻み食・ミキサー食を提供しています。 盛り付けなどをスタッフと一緒にいき食事の楽しみや役割を持つことで張り合いのある生活ができるように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	ipadにて食事・水分の接種管理を行い記録に残しています。 摂取量の少ない方にはゼリーなどで水分補給を促しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアを実施し、口腔内の状況により歯科往診を行い相談や助言をいただいております。 歯磨きが難しい方にはスポンジやウエットティッシュなどで口腔ケアを行っています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	ipadを使用し、排泄パターンに合わせた介助ができるように職員で情報共有をして声掛けを行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	牛乳や青汁・オリゴ糖などを提供し、運動の促進を行い自然排便を目指しております。 医療とも連携し、排便コントロールを行っています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	週2回の入浴日を設けております。 体調不良の際はシャワー浴や清拭で対応しております。 シャワー浴時は足浴やタオルを肩にかけてシャワー浴でも温まれるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	定期的なりネン交換・室温調整を行い、その方のペースでお昼寝や休息が取れるよう生活習慣を大切にしながら支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	全職員にて薬についての理解を深め、服薬時はダブルチェックにて確認するよう徹底しています。 飲みにくい場合はトロミを使用し飲み込みまで確認をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	できることを継続できるように支援し、その方の得意分野でお手伝いをさせていただき役割を持ってもらうことで楽しみに繋がるように支援しています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	新型コロナウイルス感染対策のため自粛しております。 ご家族からも感染のリスクがあるので外出の希望は今のところありません。 (必要時は外部受診は行っております)		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族よりお預かりし事務所の金庫にて保管しています。 歯ブラシや衣類（下着や靴下）、理美容代などに使用しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	必要に応じて電話でお話ししていただいています。 お手紙が届いた時は、ご本人にお渡ししながらお話を聞いています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	フロアの壁には季節の飾りつけをして楽しんでいただいています。 （お正月・節分・ハロウィン・クリスマスなど）		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファや席の配置を工夫し自由にTVを観たり雑談ができるよう環境調整をしています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご自宅で使用していた家具や馴染みの物・使い慣れた物を配置していただき今までの生活の延長となるよう配慮しております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室やトイレは分かりやすく表示することで安心できる環境づくりをしています。 安全にも配慮し席など工夫しています。		

2023年度

事業所名 ヒューマンライフケア宮前グループホーム

作成日： 2024 年 5 月 10 日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	新型コロナが5類になり地域の行事も再開しているが、施設内で感染者が出てしまい参加ができていない	施設での行事に地域の方をお招きしたり、地域の行事に参加していく	地域包括支援センターと連携し町内会や近隣の学校・施設と協力体制を築いていく	12ヶ月
2	16	防災訓練に地域の方々の協力体制が整っていない	年2回の訓練の日程をお知らせして地域の方に参加していただき、いざという時の協力体制を築く	地域包括支援センターと連携し運営推進会議や自治会の掲示板にポスターを貼らせてもらい訓練を知っていただく	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月